

11. OB 会員の先生からの便り



特定医療法人東筑会 東筑病院

理事長・院長 早川 知宏 (昭和 56 年入局)

昨年の 3 月 20 日より新病院での診療開始の運びとなりましたので、近況を簡単に報告いたします。現病院は旧病院に比べ、床面積は 1.7 倍となり、診察室、検査室、スタッフステーション、医局など医師にとって非常に働きやすい環境となっております。今回のインフルエンザ流行期においても、感染症患者診察室・待合室の入り口を別に配置したことによって、非感染患者との待合での同線が重ならない状況で診察業務にあたることができましたので、ほんとに助かりました。また、空調関係も外気導入で湿度が一定に維持できるようになっていますので、その効果が、昨年までと違い病院内での入院患者のインフルエンザ発症はほとんど見られませんでした。また、11 月より旧病院跡地に約 100 台駐車できる駐車場も整備でき、患者さんからも駐車できないなどの苦情が全くなりました。また、正面玄関前ピロティに、産医大からのシャトルバスのバス停が設置されています。



新病院でのリハビリテーションも岩永医師が常勤医師・センター長として復帰され、リハビリテーションセンター（回復期リハビリテーション・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション）が広さ・機能・設備ともさらに充実したものとなり、入院から在宅まで一貫した、安心・充実したリハビリテーションを提供できる体制となっています。検査部門では、導入した MRI も稼働は順調で、優秀な技師のもと、脳ドック MR、前立腺ドック MR、がん早期発見 MR ドックも開始しております。また、病床機能も一般病床の 2/3 を地域包括ケア病棟に変更し、産医大など急性期総合病院からより紹介しやすい体制（在宅復帰率に算定できる）になっております。2021 年にはすぐそばに済生会八幡総合病院が移転してくる予定となっていますので、それにも対応した病床機能変更です。今後も地域の方々から信頼される病院であるとともに、産業医科大学病院、JCHO 九州病院などの高度急性期病院からも安心してご紹介していただける病院でありたいと願っております。



久山療育園重症児者医療療育センター（糟屋郡久山町）

センター長 宮 崎 信 義（昭和 58 年入局）



「在宅支援センター」の建設から 地域支援に向かって

私は、昭和 58 年度から 5 年間教室でお世話になりました。教室を離れて、早や 30 年を過ぎましたが、眞実に光陰矢の如しです。講師として十分な働きができたか心配でしたが、教室便りで第 2 内科の発展を目にして先輩・後輩の諸先生のご努力が伺えます。

退局後 8 年間は国立福岡東病院に勤務し、その後昭和 63 年度に重症心身障害児施設である久山療育園重症児者医療療育センター（現在は 94 床）に飽食し 23 年目となりました。平成 28 年度から社会福祉法の改定があり、公益法人の姿勢が厳しく問われています。一方、行政も在宅重症心身障害児（者）で医療度の高い 15 歳以下の児童に「医療的ケア児」という用語を用いて、地域連携や医療の質も更に向上が求められています。

脳性まひ等を主とする重症心身障害児（者）は医療が不可分で、呼吸障害・消化器障害・てんかんなど全身的な医療療育を必要とする方々で、全国で 43,000 人から 50,000 人くらいおられると推測されています。その 60% 以上は入院と等しい医療度（「医療的ケア児」）の在宅の方々です。対応は公法人立施設約 130 ヶ所と国立病院機構が 73 病院です。

久山療育園は 2009 年前から「在宅支援プロジェクト」を立案し、2015 年 7 月からは在宅支援センター（グループホーム「重症者ホームひさやま」を併設）が開所致しました。航空写真の赤い屋根がその建物です。在宅支援は、①通所事業、②短期入所事業、③訪問事業・相談支援事業が中心となって在宅のご家庭を支援しています。重症児（者）は成人が 80% を超え、呼吸器障害や消化器障害等の合併症が主要な医療的ニーズです。また「医療的ケア児」で医療度の高い方は、在宅人工呼吸や酸素療法などを必要とする方が多く、長期契約入院の方々と比べても医療度は高い方が多いのが現状です。地域医療連携や高度医療機能病院から療育病院、更にはかかりつけ医など多くの力が必要とされています。

終わりにになりましたが、産業医大第 2 内科もその歴史の中で多くの医学医療に従事されておられる方々を送り出してこられたと敬意を表します。教室の発展をお祈り致します。





琉球大学大学院医学研究科薬理学（沖縄県西原町）

教授 筒井 正人（昭和63年入局）

琉球大学に赴任して10年になります

昨年、産業医大は開学40周年を迎えました。一方、私が働いている琉球大学医学部医学科は1県1医大構想によって作られた15の新設医学部の中で一番最後に設立され、産業医大より3年遅い1981年（昭和56年）に学生の受入を開始しました。私は産業医大の5回生ですが、琉球大学医学部医学科の2回生と同じ学年です。私は琉球大学に赴任して今年6月でちょうど10年になります。これまで副医学部長、学長補佐、機器センター長などの機会をいただきましたが、1年前から医学科長を拝命しています。産業医大は医学部と保健学部に分かれていますが、琉球大学は医学部の中に医学科と保健学科があります。医学部長に比べると医学科長の仕事は少ないですが、月2回開催される医学科運営会議では約40人の教授の前で議長をしなければなりません。また、入試委員会の委員長を兼務していて、昨年は医学部不適切入試問題への対応で文部科学省に説明に行ったり、沢山のマスコミからの問い合わせに対応したりしました。今年3月の卒業式では約120人の医学科の卒業生の全員に卒業証書と学士の学位記を手渡しました。学生や保護者の前で挨拶する機会が多く1年目は大変でしたが、今年は2回目ということで少しずつ慣れてきています。

さて、私は、今年11月15日（金）、琉球大学において学術集会を開催します。学術集会名は「黒潮カンファレンス」です（右図）。薬理学の教授が4年前に立ち上げた新しい学会で、150名ほどの参加者を見込んでいます。ホームページはこちらです URL：<http://kuroshio4.umin.jp>。私にとっては、日本NO学会、日本心脈管作動物質学会に続く3回目の全国規模の学会開催です。基調講演では、「イオウ呼吸」を発見された東北大学の赤池孝章教授に、「活性イオウ分子によるレドックスシグナルと代謝制御」についてご講演いただきます。また、特別講演1では、東京慈恵会医科大学の岡野ジェイムス洋尚教授に、「iPS細胞技術とゲノム研究から見てきた神経変性疾患の病態」について、特別講演2では琉球大学の益崎裕章教授に、「人生100年時代の生活習慣病予防を考える～最新のメカニズム解明と臨床応用・社会実装～」についてご講演いただきます。一般演題はすべてポスター発表で、薬理学に限らず医学全般の演題を広く募集します。どんな演題でも発表できますので、皆さん、沖縄観光をかねて是非ご参加下さい。皆さんと琉球大学でお会い出来るのを楽しみにしています。





つちのこ産業医事務所(仮) (岡山県)
産業医 田中久子 (平成5年入局)

**つちのこ産業医事務所(仮)
ツチノコサンギョウイジムショカッコカリ
(仮)は、艦コレの「(仮)」から。
レベル99以上になると
色々イベントがあるところから。
田中久子 10期 卒業 色々産業医しています。**

半世紀生きました。JR西日本の「おとな日」割引が使えるようになりました。ノストラダムスの大予言と聖徳太子の予言が当たらなくて、本当に良かった。

産医大ニュースに載った息子、春から高校生です。でっかい男になりました(服のサイズが)。丸い男になりました(体形が)。相変わらず朝が弱い。電車に乗り遅れないように自転車で走って行く速度が中学の時のちんたら漕ぎではなく、「うんうん、高校生になったねえ」と感慨に浸っています。

そして、私はお弁当を作っています。岡山市の中学は給食でした。しかも、上道中学は給食センターの隣で、ご飯はとても温かく、お代わりも出来て、大食の子供には超ありがたく、私は本当に楽をさせてもらいました。お弁当といっても「卵焼き、ウインナ、レンチンコロッケ+何か」で、文句言わない息子でよかったです。中学高校6年間、レンジのない時代にお弁当を作ってくれた母に感謝しながら、でも、私の作るお弁当は、「冷凍食品開発の皆様、本当にありがとうございます」です。

暑くなってきたので、お弁当には保冷剤が要ります。冷凍できるパックタイプのアクエリアスを凍らせて入れます。今はまだ「弁当の時間に半分凍っている」らしいですが、7月は?怖い怖い。

私は、この3月末で日本たばこ産業(株)四国支店が終了になり、瀬戸大橋を渡る機会がなくなりました。マリナライナーからみる瀬戸内海の夕暮れ、うどんを食べにいけばいいのですが。保健担当の世話をしてくれていたMさんを失った最後の1年は本当になさしくて、つらかった…。(思い出してシクシクし始める)

週一プチ失業予定だったのですが、母校の先輩産業医の皆様が、「岡山にこんなんおるぞ」と言っていただいたようで、4月からお仕事をいただきました。ありがとうございます。

ちょっと労働密度が高く、賃金が上がったのは、産業医科大学の評価が上がっているおかげなんだろうなあ、と思いながら、お仕事しています。

家の猫：相変わらず、1匹家出(あな、女子、近所で見かける)、脱走したい男の子(たま)と、兄について出たら、家の前で硬直している完全室内飼い末娘(きなこ)、寝坊な息子(猫っぼい)、夜昼ひっくり返し気味な、機械工学の教授な旦那(まさに巨大猫)、何とかがんばっている飼育員の私です。

工学の男、私の理想の男性は宇宙戦艦ヤマトの真田技師長なのですが、この猫っぼい工学博士、どこを見誤ったのだろうか……(工学系の男性が全員、真田さんな訳ではないけど)大小の猫達に囲まれて暮らしています。

産業医先では猫をかぶっているのですが、私も猫の一種なのかもしれませんが、岡山の空の下、電車で揺られて頑張っております。



NTT 西日本九州健康管理センタ（福岡県博多区）

主任医長 守下 敢（平成7年入局）

産業医科大学第2内科の皆様には、大変お世話になっております。NTT 西日本に勤務して14年目となり、多くの社員のご理解・ご協力により産業医業務が円滑に進んでいます。

「人生100年時代」「AI時代」「働き方改革」「健康経営」といった数々のワードが世の中に溢れており、産業医が果たすべき役割も益々重要になると思います。私達も多様な社会変化に対応するために、一定の健康データを集積・解析することで弊社における適切な産業保健の方向性を見出すことを心掛けています。実際に、毎年開催される社内の健康管理に関する研究会で自ら出したデータを社員への健康教育や安全衛生委員会等に反映させています。このようなことができるのも当センタ内スタッフのおかげであることは云うまでもありませんが、かつて大学院で学ばせて頂いた経験が大きいと感じています。

現在、第2内科関連では、NTTに就職した矢野聡先生の他に、4月から上野啓通先生がメンバーとして加わり、当センタの賑やかさが更に増しています。皆様ご存知のように、しっかりとした考えをお持ちで信頼の高いお二人です。30代の若い先生方のパワーと一緒に、産業医業務に邁進していきたいと思っております。

昨年末に、医局長の津田有輝先生がお忙しい中、当センタまでお越しいただき誠に有難うございました。この場をお借りして、第2内科の皆様の常日頃からのご配慮に感謝申し上げますと共に、引き続きのご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



大阪大学大学院医学系研究科ハートセンター（大阪府）

特任助教 南 口 仁（平成22年入局）

産業医科大学第2内科学の皆様、平成の時代も終わり令和の時代になりましたが、お元気でしょうか。御無沙汰しております。長男も4月に中学生になりました（産業医大に在籍中は年少でした）ので、時の流れの早さを実感しております。

2018年度の大阪大学の不整脈関連診療実績はカテーテルアブレーション167例、ペースメーカー植込み91例、ICD植込み37例、CRT植込み28例、植込型心電図記録計（ICM）植込み18例、エキシマレーザーを用いたリード抜去術は18例でした。心房細動アブレーションの増加と共にアブレーション件数は年々増加傾向で、近隣からの紹介も増え現在では入院予約からアブレーションまで約3ヶ月待ちの状態です。アブレーション件数の急激な増加のおかげで、念願のカテーテル室増設を検討頂けることになりました。アブレーション件数でもデバイス件数でもPCIの件数（約220例）を超えることを目標に日常臨床おこなっています。デバイスに関しては2015年より開始したエキシマレーザーを用いたリード抜去術の依頼も年々増加傾向で、ベッド調整に苦労しております。当院は原則全身麻酔でリード抜去術を行っているので麻酔科との調整、オペ室の調整も大変です。デバイス感染なのか天寿を全うしようとしている手前なのか判断に困る症例もありますが、関西でのリード抜去施設の拠点病院になれるよう取り組んでおります。残念は話としては、大阪大学で長年デバイス業務の中心となっていたMEさんが3月に急遽退職されてしまいました。昨年より遠隔指導管理料の増額などで少し話題となっている遠隔モニタリング管理などもちょっとうまくまわらずに少し困っています。近年チーム医療の重要性がさげばれてはいるものの、そのクオリティを維持することの難しさをひしひしと痛感しております。

最後に、今年は私が代表世話人で“第53回ペーシング治療研究会”を開催することになりました。9月21日土曜日に大阪国際会議場で開催します。色々なセッションを自由に企画させてもらっていますが、第2内科の皆様にも多大なご協力を頂いております。もしこの時期に研究会や夏休み等で大阪にお立ち寄りの際はふらっと参加して頂ければと思います（笑）。

ということで、引き続き今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

会期・会場
2019年
9月21日(土)
グランキューブ大阪
(大阪府立国際会議場)

当番世話人
南口 仁
大阪大学大学院医学系研究科
循環器内科学
前川 正樹
おもと会大浜第一病院
診療技術部臨床工学科

演題募集期間
4月25日(木)
~6月10日(月)

第53回
ペーシング治療
研究会

〜新時代への幕開け
古きを温めて新しきを知る〜